



# The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

★Celebrating 15 years★

Volume 16 | Issue 4 | June 2013

## ➡ In this issue...

- ▶ Elementary School News...p. 2
- ▶ Student Representative Councils...p. 3
- ▶ Secondary School News...p. 4
- ▶ MG4 Hunger Banquet...p. 6
- ▶ Math Field Day 2013...p. 7
- ▶ G12 Graduating Class of 2013...p. 8
- ▶ PYP Exhibition...p. 9
- ▶ Library News...p. 10
- ▶ Extracurricular Activities...p. 12
- ▶ Humanities Revision...p. 13
- ▶ Toyosu Carnival...p. 13
- ▶ KIST on Stage...p. 15

“成功を持続させるためには常に  
努力が必要だ”

—Richard C. Miller

## From the Head of School

KISTコミュニティの皆様、こんにちは!

コンサートも成功裏に終わり、早いもので今学年度もあと僅かを残すばかりになりました。

初めに、今年度多くの事を意欲的に学び目覚ましい成長をみせた生徒たちに心から拍手を送りたいと思います。それらの成功は、保護者の皆様のお子様や学校に対する献身的なサポートを頂いたことが寄与しており、学校を代表する者として心からお礼申し上げます。そして、今年度、生徒の教育にかかわった総ての学校スタッフに対しても、お礼を申し上げたいと思います。皆様の教育に対する情熱が、生徒の学習に良い影響を与え、生徒を成功に導きました。

学校は生徒たちが大人になるための準備をする場所であり、ビジョンに沿ってその役割をしっかりと果たさなければなりません。私は毎年終わりに近づくと、KISTはその役割を果たすことが出来たのであろうかと、一年を振り返ります。翌年度以降、更に学校の教育の質を向上させるために、この振り返りが的確にできることが必要なこととなります。実際の社会に照らし合わせると、IBの総てのプログラムが振り返りを重視していることの理由がよく分かります。

学校のミッションに沿って教育の質を更に向上させるために、効果的な振り返りを行いたく、それには皆様からのフィードバックが必要となります。皆様の貴重な意見やアイデアをぜひ拝聴させて頂きたく、直接私のメールに送信お願い申し上げます。英語・日本語どちらの言語でも構いません。それらの意見やアイデアを振り返りの参考にしながら、今後の戦略的プランを作成し、実践して行きたいと思っております。

後もう何日かで、多くの卒業生が学校を旅立ちます。そして、今年で学校を去る生徒や先生もお別れの時が近づいています。去っていく人、そして来年も引き続きKISTで活躍する人、総てのKISTコミュニティの皆様にとって来年が更に飛躍の年になりますように心から願っています。

**Yoshishige Komaki**  
School Director/Head of School

## DATES TO REMEMBER



### June 2013

- 10 (G12) Graduation dinner
- 11 (G5) Promotion ceremony
- 11 Peer student-led conferences
- 12 (S/EIC) Secondary awards assembly
- 12 (G10) Promotion ceremony
- 12 (W) Last day of school for students (Half day for students)
- 13-14 Office open
- 17-Jul 5 LEAP summer academic program (Session 1)

### July 2013

- 8-26 Office closed
- 29-Aug 9 LEAP summer academic program (Session 2)

### August 2013

- 15 (K1) Parent welcome night
- 19 (W) First day of school
- 20-21 (G4-G10) Mathematics diagnostic testing
- 22-23 (G11) DP retreat (\*Tentative)
- 28 (K2/K3/G1) Parent welcome night
- 29 (G2-G5) Parent welcome night
- 30 (G6-G12) Parent welcome night
- 30 (G12) College information night

### September 2013

- 13 "The Comet" issued
- 13 MYP information session for new parents
- 16 School day
- 16 (G1-G12) Clubs program begins
- 17 (S) Field Day
- 18 (E) Field Day

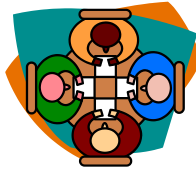
## エレメンタリースクールニュース.....



### Student-led conferences

教育で評価(assessment)をするのにあたり、報告(reporting)をすることは最も重要なことの一つです。

3月にはKISTで行われているreportingの一貫としてとても大切な、Student-Led Conferencesが開かれました。この面談を通して生徒は自分たちの学習について説明、発表を行い、得意な分野や将来に向けて伸ばしていくべき点を明確にすることが出来ます。また保護者の方々は、お子さんの学習の成果を正式な形で観察する機会を得ることが出来ます。Student-Led Conferences最中にクラスを巡回していて、生徒が保護者に向けて自分の知識、スキルや、今まで重点をおいて行ってきた探求について説明している会話を聞いて関心しました。みなさん、よく頑張りました！



### World education games

3月5日～7日の3日間にわたって、KISTエレメンタリーの生徒たちがWorld Education Gamesの競技に参加しました。このイベントでは世界中の子供たちが算数、リテラシー(読み書き)と科学のゲームで競い合います。

当校の3クラスが世界トップクラス50にランクインしました。おめでとうございます！

- G2BがWorld Science Dayで世界**17位**に入選。
- G5AがWorld Science Dayで世界**34位**、World Math Dayで世界**37位**に入選。
- G5BがWorld Science Dayで世界**12位**、World Math Dayで世界**35位**、またWorld Literacy Dayで世界**26位**に入選。

クラスでの入選以外に、個人で世界トップ15人にランクインした生徒がいました。World Math Dayで14位に入賞したGaon (G5B)おめでとう！

### 放課後の生徒の監視

保護者の皆様にお知らせです。監視をする者がいないという理由で、クラブに参加する生徒を除いて3:30以降に校舎内に残ることは禁止されています。校庭で走り回ったりすることも、クラブや他の活動の妨げになることがあります。放課後に保護者の方とお子さんが他の生徒と遊ぶ約束をしている場合は、当校付近の公園を活用なさってください。学校のすぐ後ろに小さな公園があり、清澄公園も歩いていける距離にあります。3:30以降に理由なしに学校に残っている生徒がいた場合は帰宅するよう注意をしますのでご了承ください。

**Kevin Yoshihara**  
Elementary School Principal



Mr YoshiharaとWorld Math Dayに入賞した  
Gaon (G5B)

## エレメンタリーSRC

今年もESRCは一生懸命活動に取り組んできましたが、ここ数ヶ月は特に活発に活動していました。ESRCはエレメンタリースクールの代表として意見をまとめ、様々な問題を解決し、学校の改善政策に携わっています。今年行った活動の例は、休み時間のルールを決めて、様々なゲームを仕切っていた事や、Free Dress Dayを企画したことです。一番最近の活動では、トイレをきれいな場所にするのに力を入れています。自分たちのクラスでアンケートを行った結果、小学校のトイレからペーパータオルを取り除くことに決めました。これによってトイレがきれいになるだけでなく、ゴミの量を減らして紙を節約することも出来ます。またESRCはハンドドライヤーを買うための資金を集めることにしました。ポップコーン販売を企画し、3月に行われたFree Dress Dayで集まったお金も資金として寄付することに決めました。ESRCがエレメンタリースクールの為に費やしてくれた時間、努力と彼らの活動に感謝します。

Elizabeth Heard  
PYP Coordinator



## セカンダリーSRC

### 2012-2013 SRC 一年間を振り返って

学年度も終わりに近づき、現SRC役員と別れを告げ、2013-2014年度のSRC選挙に向けての準備をする時期となりました。ホームルーム代表は来年度の初めに決まります。

今年度SRCは学校の伝統を確立し、促進するよう努めてきました。秋にはPumpkin Party、冬にはSnow Ball Danceを行い、6月5日にMidsummer Night's Danceを行いました。

もう一つ目標としていたのは、セカンダリースクール内のスポーツアクティビティを行う事でした。一週間に渡るKIST Leagueを二回行い、ドッジボールとCapture the Flagを行いました。両方とも好評を得る事ができ、多くの生徒がフィールドと体育館で行われたゲームを見に来てくれました。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の二周年忌として、日本の国旗の色である赤と白を基調としたフリードレスデイを行い、集まったお金を全て“宮城子ども育英基金”に寄付しました。寄付金は被害にあった子供たちの奨学金に充てられる事となります。

今年度達成した重要な事の一つとして、とてもポジティブな成果をもたらしたグループミーティングの行い方が挙げられるのではないのでしょうか。イベントを行う際に、少人数のコミッティー(委員会)を設置し、一つのイベントの異なった要素に担当をつける事により、集中して効率よく物事を進めら

れる事がわかりました。イベントやアクティビティ、学校の何かを変えたい際、校長とシニアマネジメントチームから許可をもらうため企画書を書く必要があり、その練習をたくさんする事ができました。提出した企画全てを行えたわけではなく、生徒用プリンターや制服にネクタイを含める提案には最終的な返答をまだ得る事が出来ていませんが、多くのSRCメンバーにとって、企画や正式な書類を作るとも良い経験になり、将来必ず役に立つ事になると思います。

今年度のSRCで、もうひとつ特筆すべき点は、グループの熱意と積極的に参加をする姿勢です。お互いを励まし合い、助け合い、繋がりの強いコミュニティとポジティブな環境を作る事ができました。

来年度は、より多くの生徒がSRCに参加してくれる事を望んでいます。

Monica (G12A)  
SRC President  
(on behalf of the SRC)



## セカンダリースクールニュース

セカンダリー校長として二年目を終えるにあたり、生徒、保護者、理事会、オフィススタッフ、PTA、マネジメントチーム、セカンダリースタッフの皆様の信頼とサポート、そして2012-2013年度が思い出深く、生徒中心の一年となった事に、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。

以下、いくつか皆様にお伝えしたい事があります。

### KIST on Stage 2013

毎年学年度末に行われる、“KIST on Stage”が5月24日に行われました。このスクールコンサートに関しては、校長として一言添えさせて頂きたいと思っていました。生徒は、数日間にわたるオーディション、リハーサル、セットアップなど、このコンサートに関わる全ての段階でとても協力的でした。

当日のスピーチでも話した通り、KISTは学習に重きを置く事で知られていますが、芸術面での活動をサポートし、発表する場を設ける事が出来なければ完成された学校とは言えないと考えています。当校には毎年行われる数々の素晴らしいイベントがありますが、今回のコンサートはその中でも特に生徒中心となって行われました。多くの生徒がこの機会を利用し、発表しようとしたところから、それぞれの自信と、学校の文化として生徒がポジティブな行動をとる事が伺え、より良い学習環境が作られている事が見えました。このように毎年コミュニティ全体で活動を祝う事が当校を特別にしているのではないのでしょうか。



Ms Babaeva leading students in the school song, "For Tomorrow".

### KISTで使用されているシステム - ManageBacについて - 生徒の学校外の活動サポート

学校では、生徒の学習サポートのために、4つのシステム使っています：E-mail (Office 365)、Moodle (学習サポートシステム)、PowerSchool (インフォメーションシステム)、そしてManageBacというシステムがあります。多くの保護者の方はManageBacについてご存じでないかもしれませんが、過去数年間DP生徒の卒業必須科目である、Creativity, Action, Service (CAS)の活動をサポートするために使用してきました。そして今年度よりMYP (G6-10)のCommunity and Service (C&S)の活動をサポートができるように使用範囲を広げました。

ManageBacには、生徒の活動のポートフォリオを作り、進行状況を記録する機能が備わっています。これはIBの学習者像が目指す、バランスがとれた、思いやりのある、国際的な生徒の教育をサポートするのにとても重要な事です。生徒の成績表に活動の進行状況を記す際には、このシステム上に生徒が入力した活動時間と、各活動のアドバイザー、そして活動の振り返りが必要となります。活動後あまり時間がたたないうちにアドバイザーからの承認や活動の振り返りを行う事が重要です。ご家庭でもManageBacについて、正しく使っているかお話ししてみてください。アドバイザーの授業時間にManageBacの使い方の説明などを受けています。

### セカンダリー高学年の1人につき1台のラップトップの使用 - 一年後

今年度よりG10-12の生徒は、一人につき一台のラップトップを学習に使用するプログラムを始めました。保護者の皆様のご協力によりプログラムの最初の一年はとてもスムーズに事を運ぶ事ができました。G6-9の生徒は、今まで通り、学校の提供するラップトップを使用する事ができ、自身のラップトップは持って来ないようにお



願っています。

G10から自身のラップトップをこのように使い始めることによりデジタル機器を使うスキルを発展させ、DPでの学習や大学進学後にも役に立てる事ができます。このプログラムは、21世紀での学習環境を整え、卒業前に生徒が自身のラップトップを責任を持って使えるようになることを目的としています。

G10に新しくラップトップを購入した場合、現在のテクノロジーの発達を速度を考えるとKIST卒業後、少なくとも大学での最初の一年間は同じラップトップを問題なく使えると考えています。その点もふまえて、今のところはG10からG12の生徒のみ、適切な持ち運び用のケースと共に、学校にラップトップを持って来るようお願いしています。

G6-9の生徒は、授業に必要な際には引き続き学校の提供するラップトップを使用する事ができます。この学年では、一日を通しての教室の移動などをふまえて学校にラップトップを持ってこないほうが良いと考えています。



次のページに続く

## 前ページの続き

G10-12の生徒が持つて来るラップトップのスペック等の詳細は既にE-Communicationと通して送られています。この事についてご質問等ございます場合は学校IT Officeまでご連絡下さい。

## Power School 保護者・生徒によるアクセス



セカンダリー教員は全員PowerSchoolのGrade Book(採点簿)を使っており、このシステムから生徒のレポートカード(成績表)が作られます。今年度の最終クワオー

ターでは、教員がGrade Bookを更新する度に、G12の保護者と生徒はオンラインで学習の状況を確認する事が出来ました。来年度の第一クワオーターレポートが発行される10月までにこのアクセスをDP生徒(G11-12)に広げる事を目標としています。G6-10についてはまだ計画している段階です。詳細は来年度にお知らせいたします。

## 学校の発展

2013-2014年度を見ますと、セカンダリー各学年に二つのクラスを持つことができました。今年度の卒業生は今まで一番人数の多い35名となりました。この人数増加は学校が計画的に行ってきた事であり、全ての生徒が全教科で一番高いレベルの結果を残すサポートが出来る分のリソースが確保されています。

ご質問や問題などございました場合は、いつでも私にご連絡下さい。保護者の皆様とスタッフにとって良い夏休みである事を願っています。

Warm regards to all,

**Stephen Rothkopf**  
Secondary School  
Principal



## Alumni News

Shreya Deshmukh  
"Class of 2011"

Shreyaはアメリカ、ボストン大学の2年生です。彼女の研究の様子がボストン大学工学部マガジン2013年春号に紹介されました。下のリンクから記事と写真(15ページ~)をご覧になれます。

<http://www.bu.edu/eng/alumni/magazine/>

Carmina Mancenon  
"Class of 2010"

Carminaはアメリカ、プリンストン大学の3年生です。今年活躍した9人の学生のひとりに選ばれ2013 Spirit of Princeton Awardを受賞しました。詳細は下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.princeton.edu/main/news/archive/S36/80/21C45/index.xml?section=topstories>

## Top 10 Drinks

今年1月に学校敷地内に2つの自動販売機が設置されました。下のリストは1月から4月までの間で最も人気があった10種類の飲み物です。学校受付近くにある伊藤園の自動販売機ではEdyカードが使えるようにもなりました。



1. C.C. Lemon 500 ml
2. Evian 500 ml
3. Lipton Apple Tea 500 ml
4. Orangina 420 ml
5. Pocari Sweat 500 ml
6. lemon Green Tea 500 ml
7. Southern Alps Mineral Water 500 ml
8. Teas' Tea Apple 500 ml
9. Oolong Tea 500 ml
10. Lipton Limone 280 ml

## Grade 4ハンガーバンケット

Grade 4では、「地球を共有する」のユニットで、世界中の様々な子供たちに与えられた異なる権利、責任、境遇に目を向けてきました。“チューニングイン”(同調)アクティビティーの一環としてハンガーバンケットを行いました。このアクティビティーは、Oxfam(オックスファム)でよく知られている、世界中の飢餓問題に対する関心を高めるために行なわれるイベントを参考にしたものです。ハンガーバンケットに関する情報は、こちらでご覧になれます。

<http://actfast.oxfamamerica.org/index.php/events/banquet>

ハンガーバンケットでは、座る場所と食料は運によって決められるので、生徒達は自分が引いたくじの番号により3つのグループに分かれました。5人の生徒は、世界人口15%の年間収入平均が100万円以上の“高所得”グループのテーブルにつきました。13人は世界人口35%にあたる、一日215円から2600円の収入を得ている“中所得”グループのイスに座りました。“低所得”グループは世界人口の50%に及ぶ、一日215円以下で生活をしている人たちのグループに分類されました。この20人の生徒達は床に座りました。グループに分かれたあと、世界中の貧困、飢餓や、それぞれの所得層が送っている生活の現状について学びました。家庭内で起こりうる状況の変化について話し合った際には、1,2人の生徒がグループを入れ替わりました。多くの生徒たちは、低所得層によく見られる教育機会の不足や子供の死亡率の高さに特にショックを受けていました。

背景が説明された後、各グループの生徒達は自分の属している所得層グループが実際に手に入れることが出来る量の食料を表したスナックを与えられました。“高所得”グループでは一人一袋ポップコーンが渡されました。“中間所得”グループは2~4名で一袋を分け、“低所得”グループは20人で二袋を分けました。数人の生徒は大きな手づかみでポップコーンを全部取って食べてしまいましたが、大多数の生徒は自分よりの恵まれないグループと分け合うことにしました。

“食事”が終わった後、世界中の様々な子供たちの境遇や責任に関するアクティビティーを行いました。高所得グループの生徒達は自由に遊ぶことを許されましたが、低所得グループは児童労働を表す作業の色塗りやカッティングをしなければいけませんでした。食事の時と同様、生徒は働かなくていい状況から常に働き続けなければいけない状態まで様々な体験をしました。

最後に各グループが、このアクティビティーの経験を通して感じたことを話し合いました。色々な興味深い感想や質問が発表され、世界中の子供たちの生活についてもっと知りたいという生徒の探究心が高まったようです。



## Math Field Day 2013

2013年4月17日KISTから28名の "Mathletes" (マスリート) 達が、横田米軍基地内にある横田ハイスクールで行われた、KPASSP Math Field Dayに参加しました。G7-11の代表生徒達は、この日のために3か月間放課後のMath Clubでたくさんの問題を解いてきました。8名の生徒が各学年の10位以内に入賞できたという形で生徒達の努力が実りました。特にG9A JisangとG11BのMinはそれぞれ各学年で2位になる事ができました。

参加者の皆さん、おめでとう！

**Jennifer Thomas**  
**Andre Ito**  
Team Coaches



Jisang (G9A)



Min (G11B)



The KIST team!



Students competing in teams for Math Mania



Over 300 students from 12 international schools attended

**Arjun (G8B)**  
Math Field Dayを通して新しいスキルを学び発展させる事ができ、楽しい一日を過ごす事ができました。特にTeam Problem Sets では、新しい友達を作り、難しい問題を一緒に解く事ができました。他の学校からの生徒と出会う事ができ、一緒に学ぶ事ができました。Math Field Dayの数週間前から、毎週クラブで集まり本番と似たような問題を練習し、問題について話し合いました。Math Field Dayはとても良い経験となりました。皆さんも是非参加してみてください！

**Abhinav (G11B)**  
今まで私は一度もこのような (アカデミックな) 競技に参加した事も米軍基地に入った事ありませんでした。正直な所、考えていたのとは全く違い、とても良い経験となりました。基地の整備はほとんどモノトーンでしたが、日本から出たような感覚がありました (特に食事が良かった!) 競技自体に関しては、よくある数学のテストに似ていましたが、そのように思いませんでした。実際は全く逆で、各問題がパズルようになっており、とても楽しかったです。全体の感想としては、今まで経験した事のないものに参加でき、また機会があれば参加したいと思います。

**Se Young (G10A)**  
Math Maniaでは "Fearsome Factors" というシニアのグループに入りました。全ての問題を解き終えた後、私達のチームからメンバーが "Correcting Station" に向かって走り、答えを確認しにいきました。向かっている途中先生から Sticky Notes (付箋) をもらい、走って他のメンバーのところにもどり、手を繋ぎ腕を交錯させるなどのミッションがありました…。どのようなものかお分かりになりましたか？

KPASSP Math Field Dayではとても良い経験ができました。この日の準備をする中で、数学の応用スキルと創造力を必要とする数学の内容を学ぶ事ができました。実際のイベントでは、初めて会う生徒と一緒に問題を解いたりする事で、新しい環境で他の生徒と協力するスキルを発展させる事ができました。"楽しい" 数学を経験する貴重な経験で、また来年も参加したいと思っています。

## Grade 12 Graduating Class of 2013

KISTの各学年グループは全て特別です。Class of 2013も同じです。しかしこのクラスは、今まで卒業したどの学年の卒業生の人数と比べても卒業生の人数が二倍の35名となり、それぞれ新しい道を歩み出すという事から、KISTの更なる発展という観点から見ると、とても重要なのではないかと思います。

G12の最後の数か月はとても忙しく、やる事がたくさん詰まっています。もちろん学業面では、IB Diplomaの最終試験への準備と、試験本番を行わなければなりません。数名の生徒は最後の二か月も大学へ願書を送るなどの手続きを引き続き行っています。これらに加えてEnd of Yearコンサートの練習や、6月7日に行われた卒業式と6月10日の卒業ディナーの準備等があります。

毎年この時期になると多くの生徒と同じように、DPコーディネーターとして、2年間一緒に頑張ってきた生徒が学校を離れる悲しみや、生徒達のこれからを楽しみにする気持ち、そして8月までG12の生徒の心配をしなくて済む気持ち！など、様々な混ざりあった感情があります。真面目な話をしますと、私がKISTに来た2007年からClass of 2013の事を知る喜びを味わう事が出来ました。G7-12の間のどこかで、何かしらの教科で全ての生徒を受け持ち、その他にも授業以外のアクティビティで受け持った生徒もいます。同

じ学年グループを数年見る事の楽しみの一つに、生徒達が学業的にも社会的にも成長する事を実際に見る事ができ、少しながらも、生徒達の人生に良い影響を与えられているかもしれないと感じられる部分にあります。教員としてもやりがいを感じる理由の一つです！

Class of 2013の生徒達が引き続き成長してゆく事を願っており、将来世界にポジティブな影響を与えるよう成長してゆくであろうと思っています。KISTスタッフを代表して、卒業生の将来の成功を願っていると伝えたいと思います。そして時間がある時には学校に戻ってくるなどして、学校と連絡を取り続けてほしいと思っています。

### Mark Cowe

Secondary School Vice Principal/IB Diploma Coordinator



Grade 12A と Ms Johnston, Mr Young



Grade 12B と Mr Cowe, Mr Hishiyama



## PYP Exhibition

Grade 5のPYP Exhibitionが4月24日(水)と25日(木)に開催されました。このイベントはPYPの集大成で、世界中で実際に起こっている問題について生徒たちが一から自分の力で探究を取り進めていき、学んだことをスクールコミュニティー全体と共有することを目的としています。Grade5の生徒達は、学期初めからPYPのプログラムに対する理解力を深めながら今年の学際的テーマである、「どのように自己管理をするか」に取り組みました。

Exhibitionを進めていく上で一番大切なことの一つとして、生徒全員が探究の対象を見つけられるように、幅広いcentral ideaを考え出し、同時に情熱をもって興味のあるトピックを研究できるようにすることです。生徒達は、“環境、人々、コミュニティー、経済活動と組織はお互いに影響しあっている”というアイデアを考え付くことに成功しました。そして、それぞれ興味のある問題に従ってグループを構成するか、それとも個人で研究するか選びました。数週間かけてトピックのリサーチ、専門家とのインタビューや情報交換に集中し、その後information reportsの下書きを作成し、改正、編集をしました。自分たちの考えや感じたことを表現するために色々なアートメディアを使い、Moodleを更新し、オーラルプレゼンテーションを計画したり、展示のディスプレイの準備をしました。生徒達は指導教員に手を引かれ、家族の方々に励まされながらこの過程を乗り越えることができました。

ファイナルプレゼンテーションが近づくにつれ、生徒たちはますます張り切っていたようです。オーラルプレゼンテーションを見に来てくださった沢山の保護者の方たちに感想をいただいたお陰もあり、もっと自信をもって人前で発表できるようになりました。水曜日のparent/community presentation 前に開かれたpizza partyと生徒たちの集会では、「今日は人生で最高の日だ！」と発言する生徒がいるほどでした。見学者の方たちは、生徒たちの知識の深さとプレゼンテーションの完成度の高さにとても感動していました。またGrade4の生徒と保護者も来年の参考のために招待されました。

2日目には見学に来ている生徒たちの質問に対し各自のブースで応答を行いました。4歳から高校生までの幅広いオーディエンスに合わせて対応の仕方を変えながら説明を行っていました。昼には、Tsukuba International School, Tokyo Community SchoolとJingumae International Exchange Schoolからの見学者にフォーマルプレゼンテーションを発表しました。



### G5の生徒たちのExhibitionを終えての感想...

“トピックのリサーチはすこし大変だったけれども発表している時は楽しかった。”

Sara

“Exhibitionで大変だったのはtask sheetsを完成させることだった。楽しかったのはコマーシャルとロゴをつくることだった！”

Shridhar

“Exhibitionで大変だったのはやるのが沢山あり、面白い内容に仕上げるのが難しいことだった。魚の乱獲について発表して、目を向けるべき大切なトピックだと思った。”

Oliver

“Exhibitionを通してグループで協力することの大切さを学んだ。とてもいい経験になった。”

Emily

### G5の先生達の感想...

“11週間にわたるExhibitionの旅が大成功のうちに終わりました。生徒達は、遺伝子組み換え、魚の乱獲、水質汚染、著作権侵害、児童労働や世界規模のゴミ問題など幅広い様々な問題のエキスパートになりました。生徒たちが率先してリサーチの方法、文献目録の製作や情報の検討の仕方など、新しいスキルを身に付けようとしていました。始めから終わりまでExhibitionの旅は素晴らしい学習経験となりました！”



Ms Geshel



Mrs Riemer



## 図書室ニュース

### Sakura Medalチャレンジ 受賞者

応募した生徒全員がくじに参加しました。みんなで決めた“celebrity judge”が箱から応募者の名前の書かれている紙を選び、以下の当選者が決まりました！おめでとうございます。

#### Elementary:

**Kiana (G3A), Minn (G3A), Kishore (G3B), Yoo Mee (G3B), Akino (G5A)**



エレメンタリーSakura Medal 当選者



セカンダリーSakura Medal 当選者

### 2013 Sakura Medal アートコンテスト受賞者

Sakura Medal アートコンテストに、国内のインターナショナルスクールの生徒たちが数多くの素晴らしい作品を応募し、競い合いました。今年はKISTの生徒が、高校 Japaneseカテゴリーで優勝しました。おめでとう、**Chae Youn (G10A)**!



Chae Youn、Mr Licuanan と Ms Yoshimoto.



Chae Younの優勝作品

当校の受賞者には、PTAライブラリー委員会から2000円の図書券が贈呈されました。



PTAが主催してくださったHungry Readers Pizza Partyにて、Sakura Medalとアートコンテストの参加者がお祝いました。

### Sakura Medal 日本語読書感想文コンテスト

他校のインターナショナルスクールからの応募者の中、**Mariko(G2A)** が入選(努力賞)しました。おめでとう！入賞した感想文は11ページに記載されています。

### Sakura Medal 2013入賞読書リスト

Sakura Medalで入賞した本の全リストは以下のリンクでご覧になれます。<http://sakuramedal.com/> ページの頭にある“winners!”のリンクをクリックしてください。

### イラストレーターへの訪問

オランダ出身の幼児絵本のイラストレーター Alex de Wolf氏がKISTに訪問してくださいました。K3の為に作った紙芝居を読み聞かせてくださり、G1の生徒と一緒に動物の壁飾りの絵を描いたり、セカンダリーの生徒のイラストレーションの学習に参加してくださいました。Alex氏が本のために絵を描いているのを見学したり、一緒にアート作品の製作に取り掛かり、とても楽しい経験ができました。

来年は作家の方にKISTに訪問していただきたいです。有名なGoosebumpsシリーズの作者R.L. Stine氏が訪問して下さるかもしれません。

次のページに続く

前ページの続き

## Thank you

今年一年を通して、協力して下さったPTAライブラリー委員会のボランティアの方々に、みなさんからお礼を言いたい。今年も父兄の方々がライブラリーの為に沢山貢献してくださり、一例ですが本にカバーをかけ、棚に並べたり景品の寄付なども行ってくださいました。

## Goodbye

残念ながら私たちのエレメンタリーライブラリアン、Ms Findlayがサマースクール終了後にオーストラリアへ移転することになりました。

“ここ数年の間に読書家へと成長していったかわいい生徒のみなさんと、生徒たちが読書を好きになれるよう環境作りに生懸命だった教員のみなさんが恋しくなります。またいつかみなさんにお会いしたいです。”



新しいエレメンタリーライブラリアンを来年迎えることを楽しみにしています。

## 人気アクティビティーの再開

Hungry Readers, DEAR, Karuta, International Mother Language Day, Sakura Medal Books and Art Competition, と Scholastic International Book Club

## 今後のライブラリー政策

- Yatta Card - IB Learner ProfileとKIST ライブラリーの方針を反映させたりワード(ごほうび)システム
- iCapture - セカンダリー生徒向けのデジタル写真チャレンジ



## 本の返却

年度末になるとライブラリースタッフから本を遅れずに返却し、ライブラリーの本の損傷、紛失は生徒各人で責任をとるよう呼びかけがかかります。本を無くしてしまい、気になる点がある場合はライブラリアンに相談しましょう。

夏休みの間、ライブラリーにある本を確認したり、KISTivalで集まった資金で新たに本を注文し、来年のリテラシー情報プログラムの計画を立ていきます。また来年みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

楽しい夏を！ KISTライブラリーチームより

## 読書感想文

### ちきゅうをほる

このはなしは、つよしとけんたというおと子の子が、あなをほって、アメリカにいったはなしです。あなは、いっけんとなりの家のにわにずれて、でてきました。

わたしは、けんたのおねえさんのペンフレンドということばのいみが、わかりませんでした。おかあさんにきいて、それは、かいがいの人と、手紙をこうかんすることだとしりました。わたしも、きょうみがあるので、やってみたいなと思いました。もしわたしがペンフレンドに会うなら、あなをほらないで、ひこうきでいきます。なぜなら、あなの中はくらくて、もし、かい中電とうをもっていでんちが、きれたらたいへんだからです。それから3人が、あなをほって、アメリカに、つくまでの時間について、かんがえました。とうきょうからケンタッキー州までひこうきで、いくと14時間です。わたしは、この3人であなをほってとうちやくするまでには、一か月かるとおもいます。土は、ドロドロで、きもちわるいからたいへんだと思います。

さいごに、うらびょう紙に、みんなで、バーベキューをしている絵があります。みんなたのしそう、かおをしているのがよかったです。けんたのおねえさんのさくらがペンフレンドにあってあくしゅしているのを見て、うれしそうだなと思いました。3人は、ほったあなを気もちよくすべって日本へ、かえったと思います。



Mariko (G2A) with Japanese teacher, Matsui-sensei.

Mariko (G2A)

## 新しいスタッフ

新しくKISTファミリーにエレメンタリーアドミニアシスタントとして加わったReina Sekiguchiを紹介します。新しい役職での活躍をお祈りします。



みなさん、こんにちは。新しいエレメンタリーアドミニアシスタントのReinaです。去年の12月、8年ぶりにオーストラリアのメルボルンから帰国しました。4月にKISTの一員になってから毎日が楽しく、みんなとても優しくフレンドリーなKISTの環境の中に入れることが幸せです。生徒たちが毎日楽しそうに学校生活を送っているのを見ていると幸せな気持ちになります。私を見たら是非声をかけてくださいね！皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

## Staff 10!

今月のStaff10!では、2011年からエレメンタリーGrade 3の担任を受け持っているClay Bradleyをご紹介します。Mr Bradleyは2013年8月からPYPコーディネーターの役職を務めることになりました。



Mr Bradley supporting students in his class.

- **出身地について面白いことを教えてください。**  
私はアメリカの南部ミシシッピ州ジャクソンの出身です。州首都ではありませんが、小さく、住民の大半が都市周辺の郊外に住んでいるのであまり都心部らしい雰囲気がないところです。ミシシッピ州の経済は農業によって支えられていて、自然環境が美しい場所が沢山あります。
- **世界で一番好きな場所はどこですか？**  
一番ここが好きだと言える場所はないです。色々な所に旅行に行きましたが心をどこよりも揺さぶるような所は、私がまだ知らない身近な所にある気がします。2番目に好きな場所が日本だということは確実です！
- **チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。**  
どんな形式のアートでも好きですが、特に絵画が好きです。もしあるアーティストと一日を過ごせるとしたらゴッホが絵を描くのを見学し、彼がこの世界についてどう思っているのか聞いてみたいです。
- **何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？**  
はい、私の才能は毎日が新鮮で、新しい機会に満ち溢れると感じることが出来ることです。この才能のお陰で一日中ポジティブにいらることが出来ます。役に立つ才能です！
- **ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。**  
とてもシャイで、必死にそれを隠そうとしています！
- **あなたにとって一番の宝物は？**  
宝物という私のギターが頭に浮かびます。特別なものではないですが、この世界には必然的に私たちにはコントロールしきれない事があり、ギターはそれに向き合っていくために必要なものを与えてくれます。
- **ご自分を言葉で表現すると？**  
相反している…シャイだけれども外交的、ポジティブだけれども思い悩む、自信はあるけれども不確かなど一日だけでは伝えきれないほど色々な面を持っています。
- **もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？**  
はい。もう一度やり直すなら、その時々を決める一つ一つの決断を大切に人生を送るという価値観をもって生きたいと思えます。それによって全く違った人間が誕生すると思えます。その“新しい”自分が“古い”自分に尊敬されるような人であって欲しいです。
- **自分を高めるために今やっていることは？**  
正直なところ、私の人生では全てがまだ取り組み中です。物事を上手くこなせるようにするだけでなく、自分の行動とうまく向き合えるようになりたいです。数ヶ月したらKISTで新しい役職が始まり、仕事を学ぶことに集中していくこととなります。PYPコーディネーターとして今までにない課題や試練をこなすことで新しい視点を養い、人として、またプロフェッショナルとして成長していけるだろうと思っています。頑張っていますので宜しくお願いします。
- **ファンに一言お願いします。**  
自分に素直であれば前進することができます。物事が悪い方向に向かっていっても、悪いところを指摘する前に自分と向き合ってください。なにかを解決したいときには解決策はいつも自分のうちにあることを忘れないでください。最後に、私たちは他の人がいるから生きていけるということを知っています。

## 課外活動について

### 課外活動の重要性

KISTではG1-G12までの生徒を対象に課題活動(クラブ等)が提供されています。音楽、ドラマクラブ、スポーツ、イヤーブック、SRC等があり、このようなアクティビティを行う事によって思い出を作る事が出来、クラス内では得られない良い経験をする事ができます。スクールカウンセラーとして働いてきた経験を通して、課外活動が生徒にとっていかに重要であるかを学んできました。

どの生徒も何かしらの分野で成功を経験しなくてはなりません。勉強を難しく感じる生徒は少なからずおり、その上で音楽やスポーツ、演劇などの課外活動に参加をする機会が与えられなかった場合、その生徒が自信や自尊心を持つ事が難しくなります。出来る限りの分野で生徒が自身の可能性を試すのはとても重要な事です。何に対して情熱があるか、どんな才能があるのか、何にやりがいを感じるのかを探るのは、生徒のアイデンティティと心の健康に必要な事です。

課外活動は社交性の発達にも良い影響を与えます。多くのアクティビティでチームワークや、他の生徒と一緒に何かを行う必要があるため、社交的な能力を発達させるのはとても重要な事です。スポーツチームにお子さんが参加した場合、チームワークの重要性やスポーツマンシップを学ぶ事ができます。KISTのクラブ活動に参加する事により、生徒同士で共通の興味を持ち、一緒にアクティビティを行う事によって、新しい友情やスキル、興味や自主性を発展させる事ができます。

課外活動に参加した生徒が参加しなかった生徒よりも良い成績を取るという事が多くの研究により示されており、これらのアクティビティでは生涯ためになる事を学べる場合が多くあります。

課外活動は大学進学の際にも重要になります。生徒がどのようなアクティビティに参加し、どのような経験をしたのかを多くの大学は見ており、これらの経験が競争率の高い大学への入学の助けになる場合があります。参加したアクティビティで達成できた事に自信を持ち、それが自尊心を高める事にもつながります。このように課外活動には多くの利点があり、生徒がクラスルーム内外で成功を経験し、バランスのとれた生徒となり、学校で起こる事を楽しむのはとても重要な事です。

Benjamin Fishman  
Student Welfare Counselor



## Grade 10 Humanities Curriculumの見直し

- DPへの準備として、どのようにしてG10生徒の Humanitiesのスキルを強化するか
- どのようにして生徒のDPのGroup 3教科選びを助けるか

これら2つの質問を基にHumanities Departmentは、G10 Humanitiesカリキュラムの見直しを行ってまいりました。今年度G10のカリキュラムは、ほぼ歴史のみをカバーしてきたカリキュラムから、DP Group 3 の教科である、Economics（経済学）、History（歴史）、Psychology（心理学）それぞれの内容を含めたカリキュラムへと変更してきました。

G10生徒がDP進学後のHumanities教科(Group 3)で学ぶ基礎を築く事ができるよう、Humanities Department内で、MYP教員とDP教員が協力して学習ユニットやアセスメントを作りました。4月12日に行われた

DP Options Nightで、G10生徒と保護者が教員とGroup 3のオプションについて話し合いました。見直されたG10 Humanitiesのカリキュラムにより生徒は自身の得意な分野や興味がある分野についての知る事ができ、より多くの情報を持ってGroup 3の教科選びを行う事ができるようになりました。

**Keith Erickson**  
Subject Area Coordinator: Humanities

新しい学習ユニットに対しての生徒の反応:

“各教科がどのようなものかを知る事が出来、自分の興味のある分野がわかりました”  
“コースの組み立てられ方が良かったため、より良いコース選びをすることが出来ました”

G10 Humanities 変更後のカリキュラム

Unit Question	ユニットの説明	DP Group 3 との繋がり
なぜ政治革命が起こるのか？	ケーススタディ(事例研究)としてフランス革命を学びました	歴史
普通の人々が大きな悪事をはたらく理由	環境によって左右される心理の理論を基に過去に行われた悪事の事例を説明し、将来同じことが起こらないように社会が何をすれば良いか、を考える。	心理学
理想の経済システムとは？	国々がどのようにして、計画的な経済システムからマーケットベースの取り組みに変更しているかをリサーチする	経済学
なぜ健康が国際的な問題なのか？	統計分析から、国の発展と国際的な健康問題の繋がりを調べる	心理学

## 豊洲カーニバル

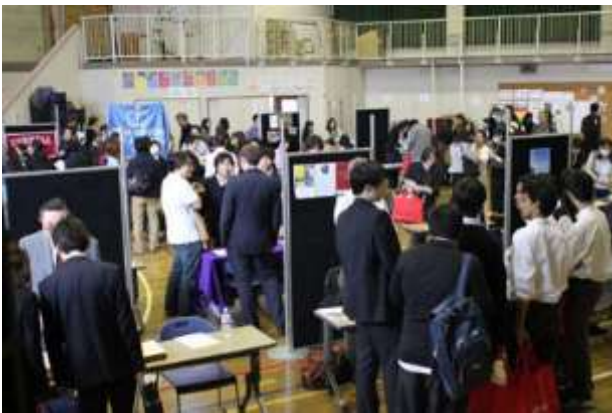
5月18日(土)“コミュニティとの繋がりと、国際的な交流や青少年の発達”を目的として、豊洲カーニバルに参加しました。当日KISTを代表し、パレード、フードブースやゲームブースで手伝って下さった生徒、スタッフ、保護者の皆様、ありがとうございます。



## College Guidance News

### 大学フェア

KISTでの初めての大学フェアは学校コミュニティー全体から数百名が来場し、大成功を収めました。3月20日に体育館で、世界各国(アメリカ、日本、イギリス、オーストラリア)から集まった30もの大学の代表者に直接お会いになれたのではないかと思います。参加された生徒、保護者、大学代表の方々から好評をいただきとてもうれしく思います。当日の会場設定やゲストのアテンドをしてくれたボランティア生徒の皆さん、レセプションを準備してくださり、飲み物とスナックでゲストをおもてなししてくださったPTAの方々はこの場をお借りしてお礼を申し上げます。今回のフェアの成功をもちまして、KIST Spring College Fairが学校の年中行事となることが決定しました。来年は3月21日に開催予定です。どうぞ皆様カレンダーに印をお付け下さい！



### Class of 2013大学合格リスト

今年も素晴らしい年になりました！本年度卒業生のうち、29名がすでに大学に願書を提出し、世界各国の89の大学から合わせて104の合格通知をいただきました(リストをご覧ください)。他にも、結果を待っている生徒、卒業後に日本、オーストラリアやヨーロッパの大学に出願する生徒、ギャップイヤーを取る生徒、兵役に就く生徒が数名います。皆さんの健闘をたたえ、今後のさらなる成功を心からお祈りしております。

(Mrs) Keiko Okude  
College Guidance Counselor

### College Acceptances and Offers: Class of 2013

\*=Scholarship offered  
()=Number of students accepted

#### UK

University of Edinburgh (2)  
University of Manchester (2)  
London School of Economics and Political Science  
King's College London  
University of St. Andrews  
Royal Holloway, University of London  
Kingston University London  
Birmingham City University  
University of Lincoln\*  
University of Liverpool  
Edinburgh Napier University  
Lancaster University  
Oxford Brookes University  
University of Kent  
University of Aberdeen

#### USA

Boston University (2)\*  
Northeastern University (2)\*  
University of Colorado Boulder (2)  
Pacific Lutheran University (2)\*  
Pennsylvania State University (2)\*  
University of Southern California (2)  
SUNY Stony Brook University (2)  
University of Chicago  
University of Michigan  
UCSD  
UCLA  
UC Davis  
University of Virginia  
Virginia Tech  
Purdue University  
University of Washington  
University of Miami (Florida)  
College of William and Mary  
Smith College  
Wellesley College  
Bard College  
Rhodes College  
University of Richmond  
State University of New Jersey, Rutgers  
SUNY University of Buffalo  
SUNY Binghamton University  
University of San Francisco  
University of Texas San Antonio  
Lewis and Clark College  
Gonzaga College  
Drexel University  
Emerson College  
Fashion Institute of Design and Merchandising  
Hofstra University\*  
Ohio State University\*  
Syracuse University  
Arizona State University  
Iowa State University  
Kansas State University  
Florida International University  
Bowling Green State University  
Temple University  
University of Miami (Ohio)

#### CANADA

University of British Columbia (7)\*  
McGill University  
University of Toronto  
Simon Fraser University  
Acadia University  
Bishops University  
Dalhousie University  
University of Regina  
University of Western Ontario

#### JAPAN

Sophia University, Faculty of Liberal Arts (5)  
Waseda University, School of International Liberal Studies (4)  
Waseda University, School of Political Science and Economics (2)  
Nagoya University (2)  
University of Tokyo  
Waseda University, Faculty of Science and Engineering\*  
Meiji Gakuin University

#### KOREA

Seoul National University

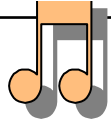
#### HONG KONG

Hong Kong University of Science and Technology

#### SINGAPORE

Yale-NUS College\*  
Raffles College of Arts  
LASALLE College of Arts

# KIST on Stage



5月24日(金)に船堀タワーホールで行われた“KIST on Stage”で発表した生徒の皆さん、おめでとうございます。また今年も観客はユニークで素晴らしい、音楽的、演劇的なパフォーマンスを見ることができました。コンサートを成功させる手助けに携わって下さった関係者の皆様、ありがとうございます。

